

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】令和 3 年 9 月 30 日 (2021.9.30)

【公開番号】特開 2020-30739 (P2020-30739A)
 【公開日】令和 2 年 2 月 27 日 (2020.2.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-008
 【出願番号】特願 2018-157274 (P2018-157274)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/16 (2006.01)
 G 1 0 L 15/22 (2006.01)
 G 1 0 L 17/00 (2013.01)
 G 1 0 L 15/30 (2013.01)
 H 0 4 M 1/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/16 6 4 0
 G 1 0 L 15/22 4 5 3
 G 1 0 L 17/00 2 0 0 C
 G 1 0 L 15/30
 H 0 4 M 1/00 R
 G 0 6 F 3/16 6 5 0

【手続補正書】
 【提出日】令和 3 年 8 月 20 日 (2021.8.20)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

通信装置であって、
ユーザから操作を受け付ける操作手段と、
音声を集音する集音手段と、
 前記集音手段によって集音された音声を発したユーザを判断する判断手段と、
 前記集音手段によって集音された音声による指示を認識する認識手段と、
 外部装置から送信されるデータを受信する第一の通信手段と、
前記集音手段によって集音された音声が、前記外部装置のユーザによる、前記通信装置
へのデータの送信を指示するものであると、前記判断手段および前記認識手段によって判
断された場合、前記外部装置から送信されるデータを、前記操作手段による操作を受け付
けることなく受信するよう前記第一の通信手段を制御する制御手段とを有する
 ことを特徴とする通信装置。

【請求項 2】

記録媒体にユーザ情報を記録する記録手段をさらに有し、
前記判断手段は、前記記録手段に記録された前記ユーザ情報に基づいて、前記集音手段
によって集音された音声が発したユーザを判断する
ことを特徴とする請求項 1 に記載の通信装置。

【請求項 3】

前記記録手段は、前記記録手段に記録された前記ユーザ情報と関連付けて前記外部装置
の情報を記録することを特徴とする請求項 2 に記載の通信装置。

【請求項 4】

前記集音手段によって集音された音声の前記記録媒体に記録されていないユーザの声であると前記判断手段によって判断された場合、前記外部装置から前記通信装置へデータを送信することを示す通知を受信したことを、前記通信装置のユーザに報知する報知手段をさらに有する

ことを特徴とする請求項 2 または 3 に記載の通信装置。

【請求項 5】

前記報知手段は、前記集音手段によって集音された音声の前記記録媒体に記録されていないユーザの声であると前記判断手段によって判断された場合、前記外部装置からデータを受信するか否かを確認するダイアログボックスを表示部に表示する

ことを特徴とする請求項 4 に記載の通信装置。

【請求項 6】

前記認識手段は、前記集音手段によって集音された音声の前記記録媒体に記録されていないユーザの声であると前記判断手段によって判断された場合、前記集音手段によって集音された音声の認識を行わない

ことを特徴とする請求項 2 から 5 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 7】

前記ユーザ情報は声紋であることを特徴とする請求項 2 から 6 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 8】

前記記録手段は、前記第一の通信手段によって前記外部装置と通信したことに応じて、前記集音手段によって集音した音声と前記外部装置とを関連付けて、前記記録媒体に前記ユーザ情報として記録することを特徴とする請求項 2 から 7 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 9】

前記集音手段によって集音された音声の前記判断手段による判断処理は、前記集音手段によって集音された音声の前記認識手段による認識処理よりも先に実行される

ことを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 10】

前記判断手段は、前記集音手段によって集音した音声に所定の単語が含まれると判断したことに応じて、前記集音手段によって集音した音声を発したユーザを判断する

ことを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 11】

前記所定の単語は、前記外部装置のユーザが所定の時間内に繰り返し発した単語であることを特徴とする請求項 10 に記載の通信装置。

【請求項 12】

前記制御手段は、前記集音手段によって集音した音声を前記第一の通信手段を介して外部サーバに送信し、

前記認識手段は、前記外部サーバから前記集音手段によって集音した音声の内容に関する情報に基づいて前記集音手段によって集音した音声の内容を認識する

ことを特徴とする請求項 1 から 11 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 13】

前記制御手段は、前記外部装置から送信されるデータを受信した場合、前記外部装置との通信を切断するよう前記第一の通信手段を制御する

ことを特徴とする請求項 1 から 12 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 14】

前記第一の無線通信手段より消費電力が低い第二の通信手段をさらに有し、

前記制御手段は、前記第一の通信手段を介して前記通信装置と接続するための接続情報を、前記第二の通信手段を介して前記外部装置へ送信し、

前記制御手段は、前記第二の通信手段を介して前記外部装置へ送信した前記接続情報を

用いて、前記第一の通信手段を介して前記外部装置と接続する

ことを特徴とする請求項 1 から 13 のいずれか 1 項に記載の通信装置。

【請求項 15】

通信装置の制御方法であって、

ユーザから操作を受け付ける操作ステップと、

周囲の音声を集音する集音ステップと、

前記集音ステップにおいて集音された音声を発したユーザを判断する判断ステップと、

前記集音ステップにおいて集音された音声による指示を認識する認識ステップと、

前記集音ステップによって集音された音声が、前記外部装置のユーザによる、前記通信装置へのデータの送信を指示するものであると前記判断手段および前記認識手段によって判断された場合、前記外部装置から送信されるデータを、前記操作ステップを行うことなく受信するステップとを有する

ことを特徴とする制御方法。

【請求項 16】

通信装置に制御方法を実行させるためのプログラムであって、

前記制御方法は、

ユーザから操作を受け付ける操作ステップと、

周囲の音声を集音する集音ステップと、

前記集音ステップにおいて集音された音声を発したユーザを判断する判断ステップと、

前記集音ステップにおいて集音された音声による指示を認識する認識ステップと、

前記集音ステップによって集音された音声が、前記外部装置のユーザによる、前記通信装置へのデータの送信を指示するものであると前記判断手段および前記認識手段によって判断された場合、前記外部装置から送信されるデータを、前記操作ステップを行うことなく受信するステップとを有する

ことを特徴とするプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

上記目的を達成するために、本発明の通信装置は、ユーザから操作を受け付ける操作手段と、音声を集音する集音手段と、前記集音手段によって集音された音声を発したユーザを判断する判断手段と、前記集音手段によって集音された音声による指示を認識する認識手段と、外部装置から送信されるデータを受信する第一の通信手段と、前記集音手段によって集音された音声が、前記外部装置のユーザによる、前記通信装置へのデータの送信を指示するものであると前記判断手段および前記認識手段によって判断された場合、前記外部装置から送信されるデータを、前記操作手段による操作を受け付けることなく受信するよう前記第一の通信手段を制御する制御手段とを有することを特徴とする。